

2022年度 事業報告

総括

1992年のウィメンズネット・こうべを立ちあげてから30年になる。生きづらさを抱える女性たちが、集まって語り合える場所を確保し、そこで始めたのが CR(コンシャスネスレイジングー意識覚醒)だった。家族、仕事、からだ、子育て・・・など、さまざまなテーマで女性たちは堰を切ったように思いを語り合った。自分たちの悩みが個人的なことだけでなく、多くの女性たちが抱える社会的な問題であることに気付かされ、繋がり、勇気づけられた。

「女たちの家」を開設したが、翌年に震災を経験し、その後は数回の引っ越しを経験したが、なんとか女性たちの居場所を持ち続けた。安心して語り合える場所が活動のスタートであり、それが女性たちには必要だから。

ジェンダー平等を活動の柱に、DV や性暴力に苦しむ女性や子どもたちのいない社会を築きたいと願い、被害者の支援や若い人への教育を行ってきた。現場から見えることを社会課題として、自治体や国への政策提言も行っている。居住支援事業や六甲ウィメンズハウス実現に向けても歩みだしている。2022年度の活動としては、30周年を記念して「ジェンダー平等に向けて」連続5回のオンラインセミナーを開催できた。素晴らしい講師をお迎えし、全国の女性たちと繋がったことは当団体にとっても大きな財産となった。今後とも息の長いご支援をよろしく!

(代表理事 正井禮子)

1. DV等の被害に苦しむ女性と子どものための相談・支援

(1) 各種相談

*電話相談(サポートライン 月・水・金 10:00~16:00、緊急時の携帯電話含む) 622件

*面接相談 173件

*メール相談 343件

(2) 一時保護事業

*利用実績

入居 32件 計63名

(内訳:おとな 33名、子ども 30名)

延べ滞在日数 1,058日(子どもの滞在日数含む)

2004年の開設以後、合計420件の受け入れを行いました。

(3) ステップハウス事業(5か所9戸)

*利用実績

(a) ステップハウス①(ファミリー向け)

入居 5件 計9名

(内訳:おとな 5人 同伴者 4名)

延滞在日数 184日(同伴者の滞在日数含む)

(b) ステップハウス②(単身向け)

入居 3件 計3名

(内訳:おとな 3名)

延滞在日数 566日(同伴者の滞在日数含む)

(c) ステップハウス③(単身～ファミリー向け)

入居 2件 計 3名

(内訳:おとな 2名 同伴者1名)

延滞在日数 505日(同伴者の滞向日数含む)

(d) ステップハウス④(単身～ファミリー向け)

入居 3件 計 4名

(内訳:おとな 同伴者1名)

延滞在日数 421日(同伴者の滞向日数含む)

(e) ステップハウス⑤(ファミリー向け)

*2022年度より、県営住宅を活用したステップハウス事業を実施しております

入居 3件 12名

(内訳:おとな 4名 同伴者 8名)

延滞在日数 166日(同伴者の滞向日数含む)

(4) DV 被害者等生活支援事業

(神戸市) 10世帯

(自主事業) 2世帯

*月 2 回家庭訪問を行う。

*専門家による相談を行う。

(5) 居住支援

*居住支援利用実績

相談 101件 うち、成約 40件

*REFUL

入居 3件

※REFUL とは、あまがさき住環境支援事業(生活困窮者などへの居住支援として、尼崎が市営住宅の空き家を活用して実施する事業)です。ウィメンズネット・こうべも参加しております。

(6) 同行支援

544件(滞在中 525件 単発 19件)

主な同行先

警察、病院、役所、弁護士事務所、裁判所、不動産屋、家探し内覧、買い物など

(7) つながりサポートこうべ

*実施状況

来場者数(総数) 884人

相談者数(総数) 93人

●成果と課題

<各種相談について>

2022 年度も電話相談・メール相談は継続してニーズがあった。他機関から紹介されたという相談も多く、民間の柔軟な対応が求められていることを実感した。2023年度は、新規の相談を増やすことを目的に相談時間をずらし、週に1度夜間まで対応する予定である。今後は SNS による相談の拡充を図りたいと考えている。

<一時保護事業・ステップハウス事業について>

2022年度は県営住宅ステップハウス事業の委託を受け、ステップハウスの拡大となった。ステップハウスが増えたため、相談者の選択肢も増え、子どもとともに新たな生活を始め自立に向けて一步を踏み出すことが出来た。シェルターやステップハウスを利用される年齢層は若年から高齢者までおり、母子または単身者と幅広い。相談内容は DV や家族からの暴力等、長期間暴力に悩んでおられたケースも多くみられた。その中で、自分の身に起きていることが DV や虐待とは気づかなかった、何処へ相談したらいいかわからなかった、相談するほどのことでもないと思った等の当事者の話を伺い、まだまだ啓発の必要性があることを感じた。

シェルターやステップハウス退所後の生活自立支援事業では、10世帯をサポートした。この自立支援事業では、各世帯それぞれのニーズを聞き取り、個別に各世帯に沿った支援を行った。年度末には神戸市とも意見交換会を行い、相談者の抱えている問題は多岐にわたっていることを確認し、さらなる対応の向上のために各機関の連携が必要だと実感した。

2024 年4月から困難女性支援法が施行される。この施行によって支援の幅が広がることを視野に入れて、2023 年度はスタッフのスキルアップのための研修を計画している。

<居住支援事業>

2022 年度の居住支援相談件数は 101 件、うち成約が 40 件と、2019 年に兵庫県の居住支援法人に指定されて以降、相談数、成約数ともに最多の数字となった。

DV 被害者や、離婚を考えている女性、シングルマザーからの相談が多かったが、障がいのある方や性的マイノリティーの方、若年女性や外国人からも相談が寄せられた。経済状況の悪化を反映し、「家賃を払うことができない」と住み替えを希望する相談も目立った。

新しい取り組みとして、兵庫県と神戸市共同募金会の助成を受け、「困難を抱える母子のためのおうちプロジェクト」を実施、12世帯のシングルマザー世帯の新生活を支援した。

また、尼崎市の REHUL 事業（あまがさき住環境支援事業）に参画、古い市営住宅を借り上げて改修し、シングルマザー世帯と DV 被害女性の合計3世帯に低廉な家賃で住戸を提供した。

行政とのかかわりについては、兵庫県、神戸市、尼崎市（REHUL 事業）はもちろんのこと、西宮市など近隣の住宅政策当局との連携を進めた。伊丹市では住まいシステム推進会議（国のモデル事業）に参加、女性（特に DV 被害者の女性）への居住支援について意見交換を行った。

<つながりサポート神戸>

神戸市の委託事業「つながりサポート神戸」を今年度も実施、貧困や孤立に苦しむ女性たちを対象に、「女性のためのほっとスペース」を6回、「女性による女性のための相談会」を4回開催した。同日に食糧支援も提供し、全7回の開催で900人近い参加者があった。2年目に入った相談会は弁護士相談枠を倍にし、ファイナンシャル

プランナーによる「お金の相談」をスタートさせるなど、複合的な悩みにワンストップで対応できる体制を整えた。コロナ禍の後の物価高で困窮している女性が多く、物資提供は今年度も非常に好評であった。本事業は次年度も開催予定である。

2. 女性や子どもに対する暴力をなくす活動

(1) デートDV防止事業

① デートDV防止授業の実施

* 実施実績

実施校 82 校

生徒・学生数 16,888 人

<内訳>

中学校 41 校

高校 27 校

大学・専門学校 14 校

特別支援学校 0 校

総数 82 校

(2) デートDVトレーナー養成オンライン講座

2022年9月10日・11日 参加 8名

(3) ボランティア養成オンライン講座

2023年2月12日・26日実施

2日間4講座 参加者 延 65名

(4) 企業向けDV防止オンラインセミナー

兵庫県内の2社で実施した。延 19人参加。

● 成果と課題

<デートDV防止授業の実施数について>

コロナ禍で2020年・2021年度の2年間減少していたが、2022年度は回復。昨年、一昨年は、対面授業が難しくオンライン希望も増えていたが、今年度は対面授業にもどす学校もあった。

<トレーナー養成講座について>

今年度はオンラインで1回実施(対面予定については、人数面で実施せず)。前年度の受講生とあわせて複数名が学校見学・追加講習といったトレーニングを経て3名があらたにサブの講師でデビューした。

3. シングルマザーや子どもたち、女性たちの居場所・生活再建事業

(1) WACCA b (ふらっと) : 交流拠点

*利用実績

居場所来所 1795 人

相談 165 件

親の学習支援(日本語学習) 42 回 延 66 名

フードパントリー(10 世帯のエントリー制) 24 回(240 名)

食料支援 313 人(常時)

(2) WACCA+(ぶらす)

① 相談事業

・居場所事業として、DV被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営した

・弁護士、精神科医、キャリアコンサルタントなどの専門家に加え、スタッフなどの相談事業を行った。

*利用実績

法律相談 17 件

女性の悩み相談 19 件

オープンダイアログ(リフレクティング) 70 件

WACCA ぶらす相談 103 件

電話・Line・メール 23 件

自助グループ(オリーブの会) 37 名

自助グループ(コスモスの会) 42 名

② 居場所事業:DV被害者等生きづらさを抱えた居場所の開設運営

*週 1 回程度女性たちが集まって、軽作業などの社会に向けた活動(ボランティアの日)

延 288 名

*読書会、おしゃべり会など、人が集いエンパワメントできる場を作る

延 283 名

(3) 学習支援WACCA塾:

・学習支援の継続実施。学校での授業理解など基礎的な学ぶ力をつける学習をボランティアの見守りと支援で行った。

*利用実績

小学生 延 752 名

中学生 延 1,507 名

ボランティア 延 1,094 名

●成果と課題

<WACCA b>

居場所が広がった事で活動の幅が広がった。これまで通り、母子両方の支援を行っているので親子関係や双方の状況など担当者と情報共有ができ、必要な支援に繋ぐことが出来た。例えば、外部関係機関とのカンファレンスや、他機関との情報共有など実施できた事は良かった。繋がりがつつある連携を今後も継続できるようにしていきたい。

また、ここ数年で次世代を担うスタッフが数名加わった事で内部での共通認識の確認、これまでの WACCA の活動についての見直しや役割についての様々な話し合いの機会が増えている。2023 年度は新拠点オープンに伴って従来の WACCA ぷらすが新拠点と合併するため、ふらっとが「WACCA」の名称に戻る。今後 WACCA の方向性や何を目指していくのか?などについて議論していく必要があると考えている。

<WACCA+相談>

DV 被害女性は、ようやく離脱し新しい住まいを得ても、それで終わるわけではなく、さまざまな不安や課題を抱えていることが多い。2022 年度は専門家により相談に加え、スタッフによる面接相談を丹念に行った。面談件数も増え、重層的な課題を持った方が多かったことが特徴である。また 10 代から 70 代まで幅広い年齢層の方が相談に来られたことも挙げられる。10 代では親からの暴力、虐待。30 代 40 代では、離婚調停中の不安やこれからの生活のこと、50 代、60 代ではひとりて生きることの不安や覚悟等を語られる方が多かった。また、子ども時代に DV 家庭で育ったこと、親からの虐待により生きづらさを抱えてしまったことなどの相談もあった。

相談に来られることで自分のこれからの、見つめなおすことができ、自分でこれからの生き方を選択できるようになった方も多く、当事者のストレングスを感じることの多い相談であった。課題としては、今後拠点が変わること、どのように相談事業を継続していくかが問われている。

<WACCA+居場所>

2022 年度の大きな成果として、居場所事業が充実したことがあげられる。WACCA が始まって 10 年目を迎えるが、居場所に集う人たち同士のつながりや信頼関係が生まれ、参加することによって生活のリズムを作っている人もおり、生きがいになっている人もいた。様々な居場所を作ってきたが、イベント的なことではなく、ほかのメンバーに会いたい、話すことが楽しい、ひとりで生きることに向きになったと語る方も多かった。

2022 年度は、助成金で「私たちの Restart」という冊子を作製した。WACCA に集う女性のそれぞれの再出発を自分の言葉で書いていただいた。2023 年度はその拠点が移転するという事で、寂しい、心配だ、などの声も聴かれたが、新しい拠点で新しいメンバーも加えた居場所を作っていくことが課題である。

<WACCA 塾>

今年度もボランティアの協力のもと、休むことなく週 3 回、全 142 回の学習支援を実施することができた。そして 12 名の中学 3 年生全員が高校進学できたことは WACCA 塾に関わる人の大きな喜びとなった。WACCA 塾へはシングルマザー家庭から直接の申し込みだけではなく、学校や SSW、区社協等から学習支援や家庭全体の見守りの依頼も多くなっている。また、様々な課題がある子どもの参加も増えているので、今後も各機関と連携を取りながら子ども支援を継続していきたい。

4.組織基盤強化事業

2022年度は切れ目のない中長期支援体制の構築を目標とした。DV 被害者支援の課題が多様化し、従来の知識や経験だけでは対応しきれないことから、ソーシャルワークの視点を取り入れたり、ケースカンファの実習を行ったりした。また話を聴くことのトレーニングのためにオープンダイアログの実習も行った。

- ケースカンファについての話し合いと研修および実習（講師：丸山恭子）2回
- オープンダイアログ研修 7回
- DV 支援者アドボカシー研修（講師：鏡味秀彦、増井香名子、徳永佳子）3回

●成果と課題

シェルター、ステップハウス、WACCA での相談などでつながるケースが多くなった。また他機関とのケースカンファレンスを行ったりする機会も増えた。今年度は、子どもセンターの職員や、スクールソーシャルワーカー、ケースワーカー、学校関係者、社協職員など複数が集まって検討する機会も作る事ができた。

しかし、結果的には振り回されてしまった事例などもあり、今後の支援のあり方に課題を残した。支援のあり方をもう一度原点から見直す必要があるのではないかと考え、2023年度の課題としたい。

5.30周年記念事業

(1)六甲ウィメンズハウスについて

①定例会議

六甲ウィメンズハウス全体会議（本プロジェクトに関わるメンバーが集い、方向性などを検討する会議）：月1回（オンライン）

六甲ウィメンズハウス事務会議（本プロジェクトの事務・実務面を担うメンバーが集い、プロジェクト遂行に必要な業務の打ち合わせなどを行う会議）：週1回（於神戸学生青年センター）

②2022年度の六甲ウィメンズハウスに関するおおまかな流れ

2022年4月1日・29日 六甲ウィメンズハウスワークショップ

2022年8月23日 令和4年度住まい環境整備モデル事業（国土交通省）に選定される

2022年11月4日～12月21日 六甲ウィメンズハウス建設資金のためのクラウドファンディング実施

2022年12月20日 露の団姫 チャリティー落語会

2023年2月22日～24日 東京等研修視察（良品計画、リトルワズ、コミュニティプレイスマつまる、コレクティブハウス聖蹟、リブクオリティ、京都YWCA）

2023年3月～4月 六甲ウィメンズハウス改修工事施工者選定

2023年3月13日 住まい環境整備モデル事業評価事務局事業者交流会登壇（正井禮子）

③主なメディア

2022年9月22日 NHK 神戸放送局「神戸市の団体が困窮女性が安心して暮らせる支援の住まいづくり」

2022年10月15日 ふえみん婦人民主新聞「女性たちが“ここに住みたい”場所を「六甲ウィメンズ

ハウス」開設に支援を」

2022年10月17日 朝日新聞朝刊「ほんまもん 安心の住まいを女性に」

2022年11月19日 神戸新聞夕刊「シングルマザーや虐待被害者支援 困難女性に「住みたい家」を」

2022年11月25日 日本経済新聞「生活苦の女性に住まいを 公営住宅の空室活用広がる」

2022年12月11日 毎日新聞「入居6回断られ…シングルマザーが直面する「住まいの貧困」とは」

2023年2月16日 サンテレビ キャッチプラスにて六甲ウイメンズハウスが取り上げられる

2023年3月18日 サンテレビ 「KOBE LIFE」にて正井禮子が紹介される

(2) 設立 30 周年記念 無料オンライン連続講座「ジェンダー平等社会の実現に向けて」

団体設立 30 周年を記念して、以下の日程で全 5 回の無料連続オンラインセミナーを開催した。オンラインでの開催ということもあり、全国から延 1,293 名から申し込みが寄せられた。

セミナー実施後は、申込者に限って、ウイメンズネット・こうべの公式 Youtube アカウントにて講座内容を限定公開し、当日参加できなかった申込者のための見逃し配信を実施した。

| 開催日 | テーマ | 講師 | 参加申込数 |
|--------|----------------------------|------------------------|-------|
| 6月19日 | 女性と居住貧困 | 葛西 リサ | 155名 |
| 7月10日 | ジェンダーと暴力～子どもへの影響～ | 森田 ゆり | 255名 |
| 8月21日 | DV被害者支援の実態 | 近藤恵子、正井禮子、茂木美知子 | 254名 |
| 9月18日 | ジェンダーと法律 | 浅倉むつ子 | 292名 |
| 10月16日 | ジェンダーと教育～デートDV防止授業の必要性と実践～ | 山口のり子、当団体所属デートDV防止授業講師 | 331名 |

6. ファンドレイジング

●成果と課題

ウイメンズネット・こうべでは、持続可能な事業運営を目的とし、ファンドレイジングに注力している。特に現在、六甲ウイメンズハウスの開設に向け資金調達は急務であり、そのため今年度は大規模の資金調達プロジェクトを実施した。

まず、8月より「困難を抱える女性と子どものための居住支援基金」を開始した。この居住支援基金では、六甲ウイメンズハウス事業を始め、既存の居住支援・生活再建支援事業の継続・拡充を目的に寄付を募った。長年の夢を実現するために新たに動き出したことを多くの方に応援していただき、前年度の倍以上の支援者から 3,400 万円を超える寄付金を集めることができた。また、2022年11月4日から2022年12月22日まで、(公財)神戸学生青年センターと共同で六甲ウイメンズハウス建設費用のためのクラウドファンディングを実施した。支援者に対する働きかけ方などの課題は残ったが、最終的に 381 名から 6,518,500 円をご支援いただいた。

今後とも活動の必要性や社会的インパクトが伝わるように、広報にも力を入れながらファンドレイジングに努めていく。

7. 組織運営

(1) 会議の開催報告

- ・総会の開催:2022年5月29日(日) zoomによるオンライン会議で開催
- ・運営委員会の開催:2022年4月から2023年3月にかけて、定期的を実施した。頻度としては月1回程度開催し、組織運営の改善および効率化に取り組んだ。
- ・支援会議を部門ごとに定期的を開催し、情報共有および支援の質の向上を心がけた。

(3) 会員数・寄付者数(2023年3月31日時点)

正会員:31名、賛助会員:85名、寄付者数:472名(六甲ウィメンズハウス建設のためのクラウドファンディング寄付者を含めると827名)

(3) 組織体制(2023年3月31日時点)

理事8名、監事1名、スタッフ19名、ボランティア50名

(4) 協力団体・協力者

認定NPO法人フードバンク関西/NPO法人フリーヘルプ/特定非営利活動法人 すまみらい/認定NPO法人CS神戸/生活協同組合コープこうべ/公益社団法人日本フィランソロピー協会/国際ソロプチミスト各団体(神戸東・西宮・芦屋・六甲・淡路・ささやま)/特定非営利活動法人おてらおやつクラブ/米日財団/一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン/一般財団法人日本善意財団/神戸市社会福祉協議会/株式会社ロゴナジャパン神戸本社/株式会社神戸物産/三和パッキング工業株式会社/イソップ・ジャパン株式会社/P&G ジャパン合同会社/公益財団法人社会貢献支援財団/未来シフト株式会社/株式会社みらいたべる/株式会社U(N)NEED/フィッシュ・ファミリー財団ジャパンオフィス(順不同)
その他、匿名の企業・個人の皆様等、ご寄付等団体をご支援してくださった皆様

ご寄付、物品寄付をしてくださった支援者の皆様に心より感謝申し上げます